

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

| | | | | | |
|------|------------------------|-----|--------|-------------------|--|
| 法人名 | 社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会 | 代表者 | 大西 孝弘 | 法人・ 事業所 の特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育所との共生施設であり、園児との交流が図れることが大きな特徴である。日々、子どもたちと触れ合うことで、元気をもらっている。 ・活動意欲を高めるために、「～したい」「～に行ってみよう」気持ちを受け入れながら、外出レクリエーションや菜園活動に力を入れている。 |
| 事業所名 | 小規模多機能型居宅介護 「いろりの郷」 | 管理者 | 秋草 ゆみ枝 | | |

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援センター | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|-----|-------|----------|-----------|-----|-------|------------|-------|-------|-----|-----|
| | 1人 | 1人 | 5人 | 1人 | 1人 | 0人 | 0人 | 3人 | 0人 | 12人 |

| 項目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|-------------------------|--|---|---|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | ・個別評価についてあらためて内容を確認する。その中で捉え方の違いや、できないことを明らかにしながら、具体的な改善策を考え共通理解していく。 | ・項目一つひとつを確認することで、支援の目指すところについても話し合うことができた。 | ・前回に比べてできていることが増えている。項目の中には難しいこともあるが、評価に取り組むことで振り返りが出来ている。一つの目標が、事業所としてできているかを評価していく。 | ・再度評価内容について確認、理解をしたうえで評価に取り組む。利用者の情報を共有して、支援に取り組む。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | ・玄関先の花壇や施設内外を整備することで、地域の方々にも居心地の良さが伝わるように環境を整える。 | ・地域の方にお世話になり、施設周りの整備ができて気持ちよく過ごすことができた。季節感のある壁面製作にも取り組んでもらった。 | ・地域の方のお世話で外回りが整備され、また室内も季節に合った壁面がしてあり努力されていることが伺える。 | ・利用者と一緒に新しく看板を手作りして、地域の方に事業所をさらに知ってもらおう。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | ・各自治会のサロンに出かけた時などに、いろりの郷について知ってもらう取り組みを行う。自治会の行事には積極的に参加する。 | ・サロンに出かけた際はいろりの郷の取り組みなどをお知らせできた。自治会の行事に、利用者と参加することを努めた。 | ・以前に比べると事業所を知ってもらっているのではないかと。自治会の方が遊びに来られることもある。地域から相談事はあまりないが、窓口的な体制は整っている。 | ・自治会行事の参加やサロン交流、園児との関わりを積極的すすめていく。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | ・利用者の思いを聞き取り、出かけてみたい場所やしてみたいことをすすめてみる。また、一つでも多く地域活動の参加を図る。 | ・常に利用者の声を聞きながら取り組みを行った。その都度良かったこと、また反省点をふまえて次の活動に繋げていった。 | ・自治会の行事に利用者と一緒に参加させてもらった。いろいろなところに出かけることができて良いことだ。 | ・利用者と地域のかかわりが途切れないように、職員は送迎時などに積極的に関わりをもっていく。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | ・運営推進会議で出した意見をいろりの郷新聞に取り入れることで、取り組みについて知ってもらう。必要に応じて、事例についての話し合いをもつ。 | ・いろりの郷新聞に意見を入れることで、取り組みを伝えることができた。会の中で地域の情報を知り、取り組みに活かした。 | ・事例について話し合うことはなかったが、検討できる場であることは認識できている。情報交換ができた。 | ・会議の中で情報収集していく。必要に応じて、会議の中で地域の方の心配事を話し合い検討していく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | ・毎月防災・災害訓練を実施しているが、これからもさまざまな場面を想定した訓練をしていく。当事業所が「頼りになる施設」となるように、活動内容や備品について地域に知らせていく。 | ・保育所と一緒に訓練を実施することができた。さまざまな場面とはいかなかったため、来年度の課題である。自治会の防災訓練にも引き続き参加する。 | ・他事業所に比べれば訓練の回数は多い。いつどのような災害が起こるかわからないので訓練は大切である。 | ・引き続き災害訓練を1/月で実施していくが、その中で夜間や様々な場面を想定した訓練をしていく。自治会の防災訓練にも参加していく。備蓄品の確認。 |